

12日(水)、水星が見ごろ

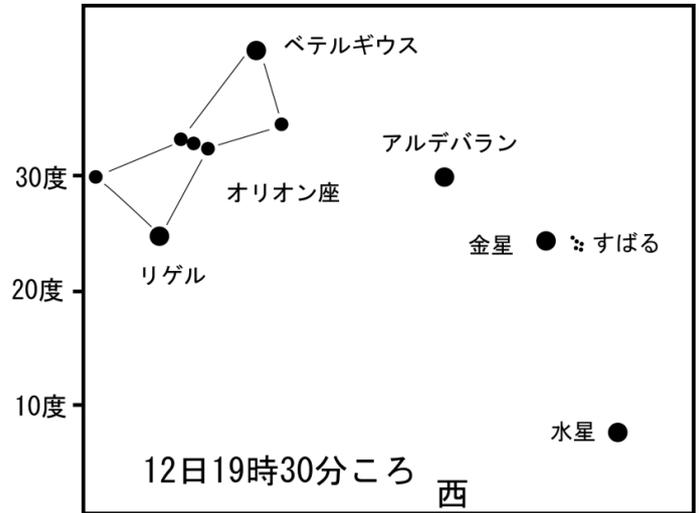
水星が、太陽から見かけ上最も東側に離れて見える時を、東方最大離角(とうほうさいだいいりかく)といいます。この日は、夕方の水星が一番見やすいころになります。ただし、水星は金星ほど明るくないので、他の星と区別が付きにくいでしょう。

こんな時は、金星が目印になります。金星が一番明るい星ですので、すぐに見つかります。この金星から地平線に目を下すと水星が見つかります。金星と水星の並びは、右の図を参考にしてください。水星の明るさは、0等星で、1等星より明るいので、天気に恵まれればすぐに見つかるでしょう。

ところで、この日は、金星のすぐ右側に、星の集まり、すばる。プレアデス星団が並んで見えます。すばるの星たちは、水星に比べると暗いので、20時ころに見るといいでしょう。

この金星とすばるの接近は、10日(月)ころから13日(木)ころが見ごろで、最も近づくのは11日(火)です。この後は、金星が、すばるの左上に離れていきます。

また、右の図のように、金星から少し離れてオリオン座や、おうし座のアルデバランも見えます。まず、水星を19時30分ころに見つけて、少し待つと水星は沈みますが、20時ころに、すばるやオリオン座の星を見つけるといいでしょう。なお、10日から15日(土)ころまでは、同じような条件になりますので、天気が悪い時は前後の日にご覧ください。



23日(日)、明け方前、こと座流星群が極大

こと座流星群は、23日(日)の明け方ころに極大(一番多くなる)となります。こと座は、真夜中前に昇り、明け方にかけて、だんだん高くなります。よって、23日の明け方に、たくさんの流星を見ることができます。

22日(土)夜から23日の明け方は、月の明かりもなく、絶好の条件です。松山市内では、23日の明け方前に、見られる流星の数は、1時間あたり5個くらいでしょう。そして、街明かりのない条件が良い所では、1時間に10個程度の流星が見られるかもしれません。なお、主に見られるのは、東の空です。ぜひ早起きをして観察してみてください。

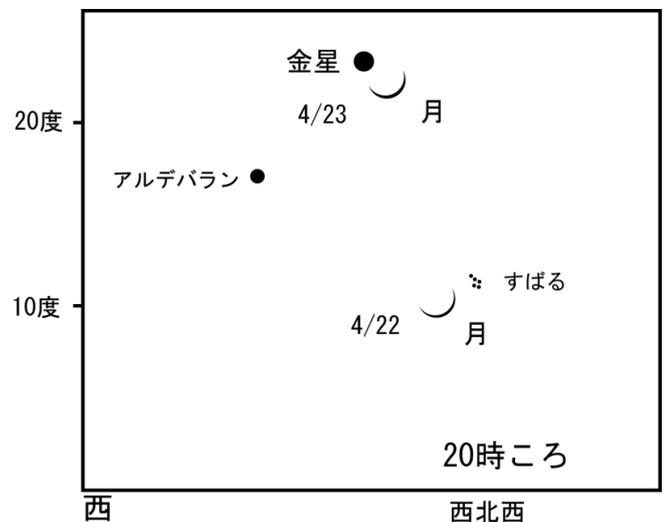
23日(日)、夕方の西の空で、月と金星が並んで輝く

23日(日)の20時ころ、西の空に、細い月が輝きます。そして、この月の少し上を見ると、金星が輝いているのがたいへん目に付くでしょう。金星が大変明るいので、19時30分ころに見ると、美しい夕焼けが加わり、より美しく見えます。

また、金星は22時前まで、西の低い空に見えます。見え始めの19時すぎから、沈む前まで眺めていると、月が金星に近づくのが分かります。時間がありましたら、1時間おきに眺めてみてください。なお、時間が進むと金星の高さが低くなるので、西方向に障害物がないところを探しておくといいでしょう。

さて、月と金星の接近は、23日ですが、前日の22日(土)は月とすばるが並んで輝きます。この日は、月が金星のかなり下になりますが、20時ころ西の低い空に見えます。

すばるの星たちは、あまり明るくないので、双眼鏡があると、月と並んだ様子がよく分かるでしょう。



北極星を見つけよう

北極星は、ほぼ真北に見え、ほとんど動くことがなく、北の方位を教えてくれる星です。しかし、明るさは2等星で、特別明るい星ではなく、時々わからなくなることがあります。

こんな時は、北斗七星の星の並びから、見つけることができます。北極星の場所は、右のように、北斗七星の端の二つの星を結んで、その間隔を5倍延ばした所となります。

北の空の星は、北極星をほぼ中心に、時計の針と反対方向に動いています。このように北極星は、北の方位を教えてくれるだけでなく、星の動きもお教えてくれますので、もし北斗七星が見つかったら、北極星を捜してみてください。なお、右の図の方法で、カシオペア座からも北極星を見つけることができます。ただ春の時期は、カシオペア座の高度が低く、見つけるのは難しいでしょう。

